

2024年度の規則から変更している部分(斜体箇所)があります。確認してください。

Advancedクラス(以下Aクラス)と、Basicクラス(以下Bクラス)を設定する。

「Aクラス」「Bクラス」を試合申し込み時に申告する。

Advancedクラスに出場した選手は、その年度はBasicクラスに出場することはできない。

その技を A 難度として数える。(跳馬を除く)

	1.40
	Aクラスにおいて、最後のアクロラインの後に実施されたアクロバット系の技は、難度点として数えない。
	0.50 2.00
	0.50
	+0.50点または+0.70点

10.00

10.00
8.00
6.00
5.00
4.00
3.00

2.00	1.00	7.00	5.00
(実施した場合は 0.00 点とする)			

—	
	0.5
高棒からの	(低棒からの実施はA難度としては認められない)
	0.50 B難度の場合は+0.70 点 0.50
	その技を A 難度として数える

	1
—	(座の姿勢またはしゃがみ立ちへ) (終末技ボーナスは与えられない)
	0.50 B難度の場合は+0.70 点 0.50
	アクロバット系のC難度以上の技を禁止技 アクロバット系のB難度以上の技を禁止技 その技を A 難度として数える

	1
	<p>アクロラインを2本以上実施した場合、最後のアクロラインの宙返りに終末技ボーナス(A難度の場合は+0.50点・B難度の場合は+0.70点)を与える。</p> <p>ただし、最後のアクロラインの後に実施されたアクロバット系の技は難度点として数えない。</p> <p style="text-align: center;">0.50</p>
	<p>アクロバット系のC難度以上の技を禁止技</p> <p>アクロバット系のB難度以上の技を禁止技</p> <p style="text-align: center;"><u>その技をA難度として数える</u></p>

1

	<p>跳躍全体にスピード感があり、高さや距離を伴うダイナミックな実施。 着地の先取りができた高い体勢での安定した着地。</p>
	<p>腕の曲がり、膝・つま先の緩みがない美しく伸びた体線での正確な実施。 振幅が大きいダイナミックな実施。</p>
	<p>立ち姿勢や歩く姿勢も含め、常に身体の細部までコントロールされた美しい姿勢での演技。 正確で安定したアクロバット系の技の実施。 ジャンプ・リーフ・ホップに高さや身体のハリがあり、すべてのダンス系の技において姿勢欠点がない正確な実施。 身体を最大限に使い、<u>リズムとテンポの変化に富んだ流れのある芸術的な演技。</u></p>
	<p>立ち姿勢や歩く姿勢も含め、常に身体の細部までコントロールされた美しい姿勢での演技。 アクロバット系の技の高さがあり、着地姿勢までコントロールされた正確な実施。 ジャンプ・リーフ・ホップに高さや身体のハリがあり、すべてのダンス系の技においてコントロールされた正確な実施。 身体を最大限に使い、表情を含め表現力豊かで芸術的な演技。</p>

採点の最重要項目

- ① 身体の細部までコントロールされた常に美しい姿勢での演技。
- ② 欠点のない正確な技の実施。
- ③ 着地の先取りができた高い体勢での着地。

〈補足説明〉

- ① 段違い平行棒で、低棒から棒下振り出しおりを実施した場合。
(低棒からの棒下振り出しおりは、A難度としては認められない。)
- ・ 終末技なし -0.50 (最終スコアから)
 - ・ 落下とみなす(採点規則に則る) -1.00 (E審判)
- ② 平均台で、終末技を実施しない場合。(例：ジャンプでおりた)
- ・ 終末技なし -0.50 (最終スコアから)
 - ・ 落下とみなす(採点規則に則る) -1.00 (E審判)
- ③ 平均台で、側転おりを実施した場合。
- ・ 終末技なしの減点をしない
 - ・ 落下とみなす減点をしない
 - ・ 終末技ボーナスなし(2部適用規則に則る)